

事業群評価調書(令和3年度実施)

基本戦略名	2-3 環境変化に対応し、一次産業を活性化する	事業群主管所属・課(室)長名	農林部 林政課	永田 明広
施策名	1 農林業の収益性の向上に向けた生産・流通・販売対策の強化	事業群関係課(室)		
事業群名	① 生産性の高い農林業産地の育成-3	令和2年度事業費(千円)	※下記「2. 令和2年度取組実績」の事業費(R2実績)の合計額	546,950

1. 計画等概要

(長崎県総合計画テュンジ&チュレンジ2025 本文)		(取組項目)							
米、園芸、畜産、木材など地域・品目ごとに所得向上を図る「産地計画」を基軸とし、スマート農林業の展開などにより、経営規模の拡大、単収・単価の向上、コスト低減などに取り組み、生産性の高い農林業産地の育成を図ります。		i) 県産木材・特用林産物の生産拡大 ii) 産地の維持拡大に向けた革新的技術の開発							
事業群	指標	基準年	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標(年度)	(進捗状況の分析) 本県の素材生産量は、搬出間伐を中心に前計画期間であるH28年度からR2年度5年間で128,500m ³ から154,925m ³ へと着実に増加しているが、更なる生産拡大を目指し、令和7年度生産目標数量である200,000m ³ の達成に向けて高性能林業機械の導入による生産性の向上や新規林業担い手の確保・育成、主伐・再造林対策などに取り組んでいく必要がある。
	産地計画策定産地の販売額(米・園芸・肉用牛・養豚)	目標値①	1,075億円	1,085億円	1,093億円	1,103億円	1,114億円	1,114億円(R7)	
	実績値②	1,021億円(H29)						進捗状況	
		達成率②/①						—	
その他関連指標	指標	基準年	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標(年度)	
	素材生産量	目標値①	168,000m ³	176,000m ³	184,000m ³	192,000m ³	200,000m ³	200,000m ³ (R7)	
	実績値②	144,086m ³ (H30)						進捗状況	
		達成率②/①						—	

2. 令和2年度取組実績(令和3年度新規・補正事業は参考記載)

取組項目	中核事業	事業番号	事務事業名	事業費(単位:千円)			事業概要	指標(上段:活動指標、下段:成果指標)			令和2年度事業の成果等	
				R元実績	うち一般財源	人件費(参考)		主な指標	R元目標	R元実績		達成率
				R2実績					R2目標	R2実績		
				R3計画	R3目標	R3実績						
事業実施の根拠法令条項				令和2年度事業の実施状況(令和3年度新規・補正事業は事業内容)								
事業期間	法令による事業実施の義務付け	県の裁量の余地がない事業	他の評価対象事業(公共、研究等)	事業対象								
所管課(室)名												
取組項目 i	○	1	合板・製材生産性強化対策事業費	833,648	0	27,108	地元説明会等を通じて事業者や森林所有者に事業内容の周知と事業実施の合意形成を図り、間伐材の生産及び路網整備等を一体的に実施した。また、林業事業者の生産性の向上を図るため、高性能林業機械の導入を支援した。	【活動指標】	6	6	100%	●事業の成果 ・各地方機関ごとに事業者へ事業内容の説明を行い、普及員が事業者とともに森林所有者に事業実施の同意取得を行ったことにより、搬出間伐の実施面積は計画以上であった。 ・本事業への取組を促進することにより、木材生産量の増加に寄与した。
				545,487	0	26,665		地元説明会の回数(回)	6	6	100%	
				236,291	0	26,764		6				
			H28-	—	—	—		【成果指標】	1,010	961	95%	
林政課	—	—	—	森林所有者、森林組合、林業事業者	搬出間伐実施面積(ha)	642	664	103%				
						260						

取組項目 i	2	対馬しいたけ活性化対策費	1,100	1,100	6,363	対馬しいたけ原木供給協議会に対して、しいたけ原木を安定して供給できる体制を構築するための取組を支援した。	【活動指標】 原木伐採本数(千本)	1,200	255	21%	●事業の成果 ・しいたけの原木の規格や単価などを取り決め、供給する仕組みはできたが、原木の供給体制においては、伐採コストに課題が残った。 ・原木調達に困難な生産者に対し、原木を供給することができたが、原木価格の低廉化が難しく、需要が少なかったため、目標伐採量に届かなかった。また、台風被害や暖冬による発生量の減により、生産量が29.1トンと減少した。結果、生産量が目標に達しなかった。		
			800	800	6,260			1,300	171	13%			
			665	665	6,283			1,300					
		R元-3			—			【成果指標】	90	31.7		35%	
		林政課			—			対馬しいたけ生産量(t(乾換算))	100	29.1		29%	
								110					
				市、JA、森林組合、しいたけ生産者									
	3	五島ツバキ活性化対策費	641	641	7,954	五島列島ヤブツバキ振興協議会に対して、協議会運営経費および、種子(油)・葉・幹の供給体制を踏まえたモデル地域の設定、各生産者の単収アップに向けた講習会の開催費用を支援した。	【活動指標】 ツバキ取組集落数(集落)	10	9	90%		●事業の成果 ・高木化しないための剪定・適正配置の技術を確立するため、集落向けのツバキ剪定講習会を実施する計画であったが新型コロナウイルスの影響で実施できなかった。 ・前年度の台風による倒木などの被害の影響もあつたにもかかわらず、H30年の12.1klから21.5klまで生産量は回復しているが、目標に達しなかった。	
			663	663	7,824			20	0	0%			
			806	806	7,853			30					
R元-3			—				【成果指標】	42	23.8	56%			
林政課			—				五島ツバキ油生産量(kl)	50	21.5	43%			
							57						
			市町、協議会、ツバキ林育成者、ツバキ実収穫者、商品製造業者										
取組項目 ii	○	森林環境譲与税事業費(新たな森林管理システム推進クラウド構築事業)	/	/	/	森林情報をより効率的に共有・活用し、新たな森林管理システムによる森林整備の促進を図るため、R3年度にクラウド型森林GISの構築を実施。	【活動指標】 クラウド型森林GISの構築	/	/	/	—		
			42,000	0	7,068			1					
		(R3新規)R3-			—			【成果指標】	/	/			/
		林政課			—			新たな森林管理システム集積計画策定市町数(市町累計)	1				
			県、市町、森林組合、林業事業者										

3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

<p>i 県産木材・特用林産物の生産拡大</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題 新型コロナウイルス感染症の影響による木材取引の停止や木材価格の下落及び大雨や台風等の自然災害により、現場に入れなかったことに加え、突発的な風倒木処理等の災害復旧作業に追われたことにより、公共造林も含めた搬出間伐は事業量が減り、他事業を含めた令和2年度の素材生産量は目標を下回る結果となった。</p> <p>◆対馬しいたけ H30年度に立ち上げた対馬しいたけ原木供給協議会のもと、原木の伐採体制の整備を進めてきたが、生産者と供給業者の間で原木の価格や規格等が折り合わず、伐採を担う業者がいなくなるという問題が生じている。</p> <p>◆五島ツバキ R2年度にツバキ剪定講習会を実施する予定としていたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて中止となった。また、ツバキ実の生産量が伸び悩んでいる原因は、一昨年の台風による倒木被害の影響と考えられる。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性 R7年度木材生産量200,000m³達成に向け、計画的な間伐、基盤づくりの実施を指導するとともに林業専用道や森林作業道等基盤整備の推進、高性能林業機械の導入による施業の効率化により生産性の向上、新規林業担い手の確保・育成などに取組んでいく。 また、路網整備と一体的な計画を策定する新たに主伐・再造林対策として、森林資源、地理条件等の分析に基づいた計画的な主伐・再造林の推進などを検討する。</p> <p>◆対馬しいたけ しいたけ原木の伐採経費削減については、他の補助事業と合わせた取り組みを検討し、集落単位にモデル的に原木を供給できる体制の整備を進めていく。 また、生産者が供給コストに見合う価格で原木購入を行うための収益アップの取組として、原木管理の労務軽減対策、しいたけの品質向上対策及び販売流通対策を検討する。</p> <p>◆五島ツバキ 安定的にツバキ実を生産できるツバキ林を育成するため、農林技術開発センターがツバキ実の生産量増加のための断幹や剪定技術の研究成果をもとに、引き続き集落向けの講習会を実施することで、島内のツバキ林所有者の育成技術を向上を図り、安定したツバキ実の供給ができる体制を整備する。</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

ii 産地の維持拡大に向けた革新的技術の開発	
<p>●実績の検証及び解決すべき課題</p> <p>◆クラウド構築</p> <p>R3年度にシステム構築業務委託を実施する予定。現行システムを継承し、新たな森林管理システム機能を新規に開発するための仕様書案を作成した。県・市町・林業事業体がクラウド型森林GISを利用開始する前に利用者からの意見を反映するため、R3年度内に仮運用期間を設ける必要がある。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性</p> <p>◆クラウド構築</p> <p>委託契約後に円滑に業務着手できるようスケジュールを設定し進捗管理を行う。また、利用者向け説明会を開催して理解を深めていただくとともに、クラウド化に対する意見・要望を把握し本運用前に解決を図る。</p>

4. 令和3年度見直し内容及び令和4年度実施に向けた方向性

取組項目	中核事業	事業番号	事務事業名 事業期間 所管課(室)名	令和3年度事業の実施にあたり見直した内容 ※令和3年度の新たな取組は「R3新規」と、見直しが無い場合は「—」と記載	令和4年度事業の実施に向けた方向性		
					事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
取組項目 i	○	1	合板・製材生産性強化対策事業費 H28- 林政課	—	—	生産性向上等、体質強化を図るための製材工場等の整備と原木を安定的に供給するための間伐材の生産及び路網整備等、川上から川下まで一体となった取組を引き続き実施していく必要がある。R4年度も国制度を最大限に活用した施設整備、間伐材の生産及び路網整備等を進めるため、国に事業継続要望を行っていく。	現状維持
		2	対馬しいたけ活性化対策費 R元-3 林政課	しいたけ原木の伐採経費削減については、他の補助事業を活用し、集落単位にモデル的に原木を供給できるシステムづくりを進めることとした。 また、原木管理の労務軽減対策としてアシストスーツの導入を図り、商談や催事PR活動等により販売促進を図る。	②	本事業はR3年度で終了予定であるが、対馬しいたけにおいては、生産者の高齢化に伴い生産量が減少していることから、流通の集約化や販路の開拓などにより、所得を向上させることで生産意欲を向上させ、生産量拡大を図るため、販売流通対策について新たな事業の構築を検討していく。	終了
		3	五島ツバキ活性化対策費 R元-3 林政課	—	②	本事業はR3年度で終了予定であるが、ツバキは五島地域のシンボリックな花木であり、多様な森林づくりとあわせて椿実の生産手法を検討していく必要があるため、技術の確立と普及について新たな事業の構築を検討していく。	終了
取組項目 ii	○	4	森林環境譲与税事業費 (新たな森林管理システム推進クラウド構築事業) (R3新規)R3- 林政課	R3新規	②	R3年度は、新たな森林管理システムの推進に向けて森林GISクラウド整備を行い、県・市町・林業事業体間の各組織における森林情報の共有化を図る。 R4年度は、クラウド運用下におけるシステムの更なる推進に向けた課題の抽出とその改善を行い、R5年度の本格運用に向けた取り組みを進める。	改善

注:「2. 令和2年度取組実績」に記載している事業のうち、令和2年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

【事業構築の視点】

- ① 視点① 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができているか。
- ② 視点② 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。
- ③ 視点③ 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。
- ④ 視点④ 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができているか。
- ⑤ 視点⑤ 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑥ 視点⑥ 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑦ 視点⑦ 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。
- ⑧ 視点⑧ 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案(制度改正要望)する必要はないか。
- ⑨ 視点⑨ 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。
- ⑩ その他の視点